

「子宮頸がん」 定期健診の勧め

20～30歳代の若い女性の子宮頸がんが増加しています。子宮頸がんは、初期のうちはほとんど自覚症状がありません。しかし健診でがんになる前に発見すれば、ほぼ100%予防することができます。また、ワクチン接種の有効性も確認されています。予防や早期発見のために、若いうちから定期的に日航健保や自治体の健診を受けましょう。



ただし、HPVに感染しても、多くの場合は免疫力によって体内から排除されます。ところが何らかの理由でウイルスが排除されずに感染が長期化した場合に、長い年月（感染から平均10年以上）かけて、子宮頸がんへと進行する危険が出てきます。HPV感染以外では、多産などによる物理的な刺激も要因となると考えられています。

早期発見のためには 定期的な健診の受診が大切です

初期の子宮頸がんは、通常、ほとんど症状がありません。がんが少し進行しはじめたときの症状として、月経でないときのお血や、性交時の出血・痛み、下腹部や腰の痛み、おりものの異常などがあります。症状が少ないため、早期発見のためには定期的な健診が大切です。症状がなくても、毎年、健診を受けることが勧められます。



日航健保では、18歳以上の被保険者・被扶養配偶者に対して婦人科健診の一部費用補助を行っています。ぜひ健診を受けましょう。

子宮頸がん検査の種類

婦人科健診で行う検査	塗抹細胞診	子宮頸部や膣の表面から、綿棒やブラシ、ヘラなどで細胞をやさしくこすり取る方法。採取した細胞に異常がないか、顕微鏡下で調べます。
がんが疑われるとき	コルポ診	コルポスコープという拡大鏡のような器具で子宮頸部の粘膜表面を拡大し、細かい部分を観察。生検用に組織も採取します。
	生検	子宮頸部から組織をとり、標本をつかって顕微鏡でがん細胞がないかどうかを調べます。

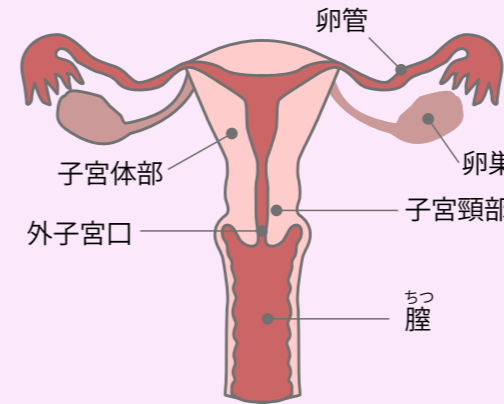
子宮頸がん検査とは？

子宮頸がんは、子宮の入り口（外子宮口）に発生することが多く、検査ではこの部分を観察したり、細胞を採取して調べます（細胞診）。また、子宮頸がんは非常にゆっくり増殖しますが、がん細胞が子宮頸部に見つかる以前の初期の段階で、正常ではない細胞が見つかります。この段階を「異形成」といいます。細胞診では、この異形成の段階から診断することができます。がんになる前に発見し、治療を行えば、ほぼ100%完治すると言われています。がん健診は非常に重要です。

子宮頸がんが若い女性に急増しています

子宮頸がんは、がんができる場所によって「子宮頸がん」と「子宮体がん」に分けられます。子宮頸がんは子宮の入り口（頸部）にでき、一方、子宮体がんは赤ちゃんが育つ場所（体部）にできます。子宮頸がんにかかる人は年間約1万9000人で、内訳は子宮頸がん・子宮体がんともに約9000人です。子宮体がんは閉経後の女性（特に50歳以上）に多く見られますが、子宮頸がんの多くは40歳前後で発見されます。また、50歳以上の中高年層ではこの20年間で減少してきていますが、逆に20～29歳では急激に増加しています。

子宮と周囲の臓器



通常、がんになる人は高齢者ほど増加しますが、なぜ子宮頸がんは若い人が多いのか？

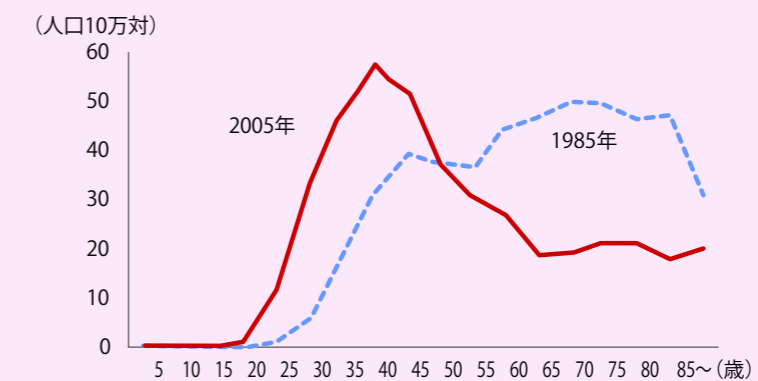
「異形成」の段階で発見すれば がんの発症を防げます

HPVに感染した人の中で、およそ10人に1人がウイルスを排除できずに感染が長期化することがあります。その場合、子宮頸部の細胞に異常な変化を起こすことがあり、この段階を「異形成」といいます。異形成の段階でも、免疫力が正常であればウイルスが排除され、ほとんどが自然に治ります。ところがウイルスが排除されずに感

ウイルス感染が主な原因です

子宮頸がんの主な原因は、性交渉によって感染するヒト・パピローマウイルス（HPV）と呼ばれるウイルス。HPVは非常にありふれた存在で、性交渉のある女性であれば、ほとんどの人が感染したことがあると考えられています。

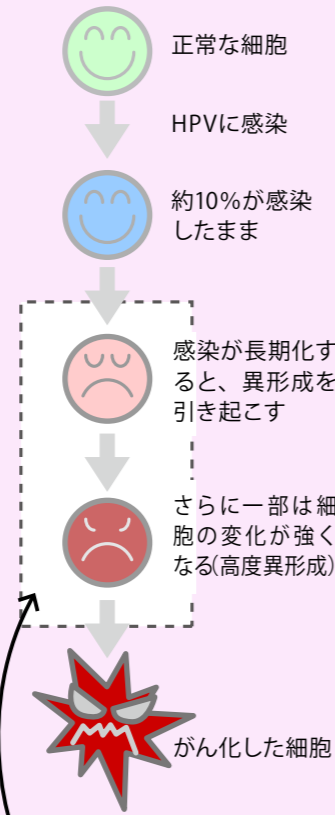
子宮頸がん 年齢別発生率の変化



でしようか？ それは、子宮頸がんはヒト・パピローマウイルス（HPV）の感染が関与しており、性活動が活発な若い年代で感染の機会が増えているからだと考えられています。

子宮頸がんの予防には ワクチンが有効です

HPVのワクチンは、接種することで体内に抗体をつくり、感染を予防するというものです。現在、国内で販売されているワクチンは2種類あり、いずれも子宮頸がんの原因となるHPV15種類のうち、2種類の感染（日本人の子宮頸がんの約60%）による子宮頸がんやその前がん病変に対して高い予防効果があるとされています。ワクチンは、性交渉を体験する前に接種することが最も効果的とされ、11～14歳での接種が推奨されています。ワクチンの効果はそれ以降の年代でも高いことが確認さ



この段階で発見・治療すればがんが防げます

現在、多くの自治体が公費助成を行っていますので、お住まいの自治体にお問い合わせください。

子宮頸がん検査は効果が証明されています

子宮頸がん検査は非常に有効で、進行がんを防ぎ、死亡を減らす効果が証明されています。多くの先進国では子宮頸部の細胞診による検査が行われており、アメリカでは、18歳以上の女性の80%が過去3年以内に1回以上の検査を受けています。一方、日本では過去1年以内に検査を受けた女性は25%程度に留まっています。